第 229 号　令和 8 年 6 月 23 日発行

中田かわら版　7 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会　　協力：中田連合自治会　泉区役所
制作：中田かわら版制作編集委員会　　横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい〈86〉

Pay it forward 「恩送り」の町、中田

中田地区スポーツ推進委員連絡協議会　良知康波さん　69 歳

＜首には 10 回分のメダルが＞

ラチ　ヤスナミと読みます。「良知」は静岡では珍しくありません。静岡県藤枝市生まれ、藤枝東高校時代は弓道部と同時に応援団に所属。冬のサッカー全国大会では大阪の道頓堀の旅館に泊まりながら決勝戦まで応援。（当時は大阪で開催）ゴン中山、長谷部誠さんは高校の後輩。

丁度 50 年前（1976 年）、米国建国 200 年祭の時に米国テネシー大学に留学、約 1 年半を過ごす。上智大学外国語学部卒、大学では帰国子女が多く英語力では全く太刀打ちできないので、必修科目以外に法学部や経済学部の授業を多く取っていた。副専攻は国際関係論、ニクソン・キッシンジャーの外交政策。

教師歴は西湘高校、長後高校（現藤沢総合高校）、鎌倉高校、上矢部高校、舞岡高校、七里ガ浜高校を経て 55 歳で早期退職。その後 10 年間山手学院中学・高校勤務。現在も鵠沼高校。聖園女学院高校、山手学院高校で**英語**を教えている。

◆　◆

中田地区には 29 年前（1997 年）から南親交会に在住。町会で体育部を経て、そのままスポーツ推進委員になりました。中田連合自治会の行事やスポ推の「子供水泳教室」が半世紀を超える伝統行事であることに感銘、感動を覚えました。行事実行役員の大人たちを見た子どもたちが大人になった時に、同じように行事に積極的に関わって地域に還元してくれるといいなと思っています。それが「恩送り」、自分がしてもらったことに感謝し、次の世代に「恩返し」ならぬ「恩送り」で繋げていくことです。子どもは日本の未来、地球の未来、「ジュニアマーチングバンド」をはじめ、多くの行事、水泳授業支援（中田小）を通して、子どもたちを学校、家庭、地域で育てている風土のある中田は素晴らしいコミュニティだと思っています。

追加です。趣味のマラソンは横浜マラソン大会第 1 回から昨年の第 10 回まですべて完走。写真はその時のメダルです。若き頃、富士登山競争 4 回、トライアスロン 226 ㎞、カヤックも。ハマスタではベイスターズの応援をしているそうです。

良知さんは中田連合自治会の理事会にスポーツ推進代表として出席されています。　（松本　正）

本紙に関するお問い合わせは踊場地域ケアプラザ嶋までご連絡ください。
【電話：045-801-2114】

■とっておきの秘話情報<3>

中田の「民謡・音頭」誕生の話　　宮田　貞夫

中田には「中田音頭」と民謡「中田よいとこ」の二つがあり盆踊りなどで知られている。「中田よいとこ」は中田連合の賀詞交歓会の閉会の前に有志が壇上に上がり国分満義さんの指揮で合唱されるのが恒例になっている。

最近、ある自治会の会長さんから質問された。「中田音頭の作者がどんな人で、いつごろできた歌なのか知りたい」。改めて調べてみると中田連合が 10 年ごとに発行している「ふるさと中田」には最後のページに楽譜付きの歌詞と作詞者、作曲者の名前が記されている。「中田音頭」は鈴木ヨシ作詞・小川治之作曲。民謡「中田よいとこ」は小山よし子作詞・小川治之作曲とある。これだけ愛され普及しているのに作者のことは誰も気にしていないのが実態。では、どこから手を付けていくか、何かヒントはないか。手元にあるものと言えば 20 年ほど前に誰かから頂いた中田町青年団発行の「創立五十年周年記念誌」（昭和 36 年 3 月）があった。戦後まもなく当時の青年団の誰かが作ったらしい、と言うことが分かった。約 80 年前の昔の話である。これが最初の手がかりだった。同誌 23 ページの「昭和 21 年から今日まで」のなかに「盆踊り大会など作詞、作曲、振り付けの面で大変な苦心があった」と記されている。このことが「中田よいとこ」誕生のことなのか。

■　　■

このころ、知人を通して渡辺幸弘さん（中村）から昭和 21、22 年当時のガリ版刷りの同人誌「若草」「なかだ」の 4 冊が届けられた。まさに貴重な資料だった。「若草」（昭和 21 年 3 月、創刊号 16 ページ）、同 4 号（昭和 22 年 3 月、26 ページ）の文芸欄に鈴木ヨシ、小山とし子の名前が頻繁に出てくる。作曲者・小川治之の名がないということは外部の人と言うことになる。後で分かったが当時の中田小学校の音楽教諭だった。

＜作詞者二人の紹介＞

◎民謡「中田良いとこ」作詞・小山よし子
　　中田町青年団（産業副部長、文化部・産業部・体育部）
　　エッセイ「学びの夜」、　短歌など多数投稿。

◎「中田音頭」作詞・鈴木ヨシ（ヨシ子の 2 種類が使われている）
　　中田町青年団（第六班機構、班長小島貞雄、副班長鈴木ヨシ・文化部長小山よし子）。
　　エッセイ「追憶」、文芸欄に俳句多数投稿。

■　　■

■「中田音頭」「中田民謡」レコーディング発表祝賀会

昭和 63 年 9 月 4 日、中田小学校講堂、主催・中田連合自治会（奥津喬雄会長）のとき。上記渡辺さんから祝賀会のパンフレットと感謝状贈呈の写真が提供された。解明には貴重な資料になった。

戦後まもなく、町の青年団員らが新生のわが町への期待を込めて作って愛称していたが、いつの間にか忘れられていた。音頭と民謡が生まれたのは昭和 22 年の夏ごろ。「明るいまちづくりのシンボル」として作られた。30 年ぶりの復活だった。式典の最後に以下の 5 人に感謝状が贈られている。作詞者・小山よし子、鈴木ヨシ、作曲者・小川明治之、民謡愛好家・菊池八千代、JAK レコード KK。祝賀会の模様は翌 9 月 5 日付の神奈川新聞横浜版に 6 段抜きで大きく報道された（一部抜粋しました）。なお令和 8 年 2 月 23 日、区政 40 周年記念、「泉区民音頭」中田民謡・中田音頭の会が泉区舞踊協会（西風九弥恵会長）など協力で野毛地区センターで開催された。

編集後記

あることを書こうとして集中的に考え、思っていると不思議と向こうから資料や記録など欲しかったものが寄ってくることがある。例えば「中田音頭」の場合など作詞者の名前は楽譜に書かれているが、それがどこの誰か。どんな経歴の持ち主かは不明。作詞するくらいだから文才もあるはずだが、資料は全くない。ヒントは戦後間もない昭和 22 年ごろ、町の青年団の誰か。民謡、音頭の作詞は小山よし子、鈴木ヨシ、作曲者は不祥。中田には小山、鈴木の苗字は多い。これも大きなヒントになった。今年の夏の盆踊りは作者に感謝して踊りたい。　（宮田貞夫）

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会
委員長　宮田貞夫　　編集長　松本 正
編集委員；小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋　宏之